



## 月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

### 第8号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

### 〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ:キリストは神のかたち エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(4)ヘッケルの描いた捏造の図
- ◎箴言から学ぼう!:神さまを捜し求めるなら
- ◎詩篇を読む:もし、理不尽な目に会ったとしても・・・
- ◎キリストを信じた体験談:偶像の神から救われて シャローム
- ◎聖書に関する偉人のことば:ナポレオン
- ◎ご案内

### ＜聖書からのメッセージ＞

#### キリストは神のかたち

by エレミヤ

#### 〔聖書箇所〕コロサイ人への手紙1:15

1:15 御子は、**見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。**

聖書の中心人物はイエス・キリストです。しばらく、この方について聖書から学んでいけたら、と願っています。本日は、タイトル通り、「キリストは神のかたち」ということを見ましょう。冒頭の聖書箇所の「**御子は、見えない神のかたちであり**」との記述を考えてみましょう。まず、御子とは、イエス・キリストのことです。さて、「**神のかたち**」とはどのような意味合いなのでしょう？「かたち」とは英語で、“image”と訳されます。イメージキャラクターのイメージということばです。今流行のご当地イメージキャラクターは、形にしづらいその地方の特色を見える形にし、それをもって他の地方の人や観光客に

アピールします。たとえば、奈良には、「せんと君」というイメージキャラクターがいるとのこと。そのせんと君のイメージ図を見ると、仏像に鹿の角が生えているキャラクターのイメージです。なるほど、このイメージを見れば、まだ一度も奈良に足を運んだことのない人でも、奈良は大仏で有名なところ、また、鹿でも有名な所なんだと、その地のイメージがしっかりつかめるわけです。このようにイメージ（かたち）を通して、まだ見たことのない人にその地の特徴を示すことが可能なのです。

さて、人間は誰も神を見たことはありません。したがって、我々が神を知ることはできない、神が分からないのも仕方がないという面が、少しあるかもしれません。そのことは神も分かっておられ、それゆえ神は、私たちが理解できるよう、神はどのようなお方か、我々がイメージをつかめるよう配慮し、方法を用意した、ということがこの箇所の言わんとしていることなのです。その方法とは、神のかたち（イメージ）

# キリストは神のかたち エレミヤ

である、一人の特別な人、イエス・キリストという人を用意するという方法である、それがこの聖書箇所の一語に言っていることなのです。それで神がどのような方であるか、真に理解したいと願っている人は、イエス・キリストを通して、見えない神をあたかも見るように、理解することができる、そういう意味合いなのです。

このことをもう少し突き詰めて聖書の他の箇所では、以下のようにも語られています。

## 〔聖書箇所〕ヨハネの福音書14:8,9

14:8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」

14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。」

ここで語られている「父」とは、父なる神、すなわち神様のことです。そしてここでは、イエスご自身がキリストを見た者は、じつは「父(神)」を見たのである、と語っておられます。です。キリストという方の非常に特別な意味合いに関して、是非理解してください。繰り返しますが、キリストを見ること、それはそのまま見えない神を見たことになると聖書は語っているのです。こう聞いて私たちがこのような言葉を理解するか、はたまた、信じるかどうか、それはまた別として明らかに聖書はそのように述べているのです。

したがって、我々は目に見える人の姿をとって、我々の間に現れたイエス・キリストという人を通して、神をリアルに理解できるのです。我々の目には見えず、したがって憶測と想像の中にしか存在しないはずの、この神という方をキリストを見ることにより、リアルに理解し、悟り、見ることもできるのです。

さて、もしこのことばが本当なら、(私は本当だと信じているのですが) そのイエス・キリストは一体どういう人だったのでしょうか? 私たちはイエス・キリストを通して具体的に神のどのような面、性質を見ることができのでしょうか? その例は聖書に沢山書かれているので

すが、本日は以下の福音書に書かれた出来事を通して、イエスの性質を見てみましょう。

## 〔聖書箇所〕ヨハネの福音書8:3-11

8:3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、

8:4 イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。」

8:5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」

8:6 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。

8:7 けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」

8:8 そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。

8:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。

8:10 イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」

8:11 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」

この箇所では、姦淫の罪で捕らえられた女性に関して、イエスがどう反応されたかを記しています。姦淫の罪は旧約聖書の法によれば、重い罪であり石打ちの死刑に相当する罪でした。したがってこの女は皆から石を投げつけられ、その石により、殺される運命にあったのです。

その女に対して、イエスがどのように対応したかと言うと、上記の記述通り、イエスは今にも石を投げつけられそうだった彼女をその刑から救いました。さらに、「私もあなたを罪に定めません」と言われました。このようにして、イエスはこの女を彼女が本当は受けるはずだった死や罪の罰から助けてあげたのです。

# キリストは神のかたち エレミヤ

このことを通して、イエスがこの世に来られた理由、またひいては、神がどのように我々に対応されているのかを理解することができます。イエスが来られた理由、それは検察官のように我々の罪を暴くためではない、そうではなくて、逆に失敗や問題や罪に陥りやすい我々を助け、何とか、救いの道を講じ、助けを与えるために来られたことが分かるのです。自分が犯したその罪の真っ只中で捕らえられ、今にも死刑にされそうだった女がイエスにより救われ、命を助けられたように、私たちの罪を暴いたり、糾弾するためではなく、その罪に陥り、窮地にいる私たちを助けるためにイエスが来られたこと、また見えない神も我々に対してそう願っていることが、この箇所から理解できるのです。目に見えない神の心や思い、心情が、この目に見えるイエスのことば、行いを通してはっきりと理解できるのです。

さて、聖書の以下の箇所イエスがこの世に来られた理由についてこう書かれています。

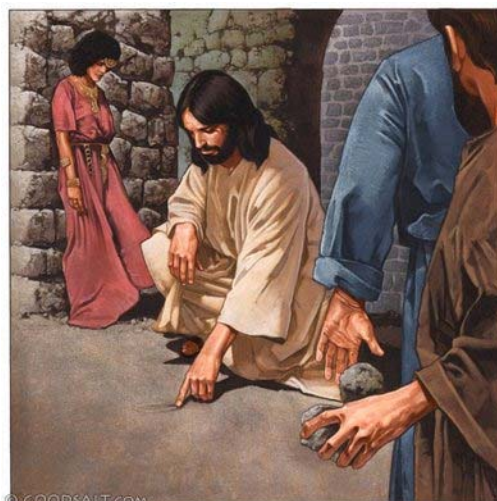
## 〔聖書箇所〕ヨハネの福音書3:17

**3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。**

ここに書かれているように、我々が救われ、問題が解決され、癒されるために御子、すなわちイエスは来られたのです。我々は時として自分の力では余る解決不能な困難な問題に取り囲まれることがあります。そんな時、絶望が心によぎるかもしれません。しかし、ここに神が我々のために用意し、備え、解決を与えるべく与えられた一人の人がいることを知みましょう。福音書を読むとき、神からイエスが送られ、そのイエスにより、あらゆる人が自分の問題をこのイエスにより解決され、癒され、助けられていることを見ます。上記箇所では、自分の罪のゆえに死刑になりそうだった女が助けられています。また、他の箇所では、目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、歩けなかった人々が癒されています。これらのことは、遠い昔のことに過ぎないと思えるかもしれません。しかし、そう思うてしまうなら、せっかくの救いの道を失ってしまいます。上記箇所に「**神が御子を世に遣わされたのは…御子によって世が救われるためである。**」と書かれているように、神は我々の

問題を見過ごしにしようとは思っておらず、逆に私たちを救うために、神の御子であるイエスをわざわざ送られたので、この方を信じ、頼る人は救いを得、助けを受けるのです。

私個人のことを言うなら、私も40年以上に及ぶクリスチャン生活の中でこのイエスに祈り、結果助けられた経験は数知れずあります。たとえば、ある時、私は仕事でリストラ宣告されたことがありました。次の引継ぎの人が送られてきて、仕事をその人に任せるよう言われたのです。しかし、それでは、私の家族一家4人が食べていけません。それで、私は仕事のために祈りました。「イエス様、もし、私の仕事が続くのがあなたの御心でしたら、この仕事を守ってください。」そのように祈ったあと、不思議なことが起こりました。引継ぎの人が仕事を引き受けた途端にトラブル続出になったのです。その結果、音をあげた上司が仕方なく、再度その仕事を私に戻すようにしました。結果、一度はリストラ扱いだった私が、再度仕事に復帰できたのです。あり得ないことです。しかし、このように、イエスは私たちの救い主として神によってこの世に来られました。この方に祈り、求める人は問題の解決を得ることを知みましょう。



姦淫の女とイエス:キリストは我々の罪を罰するために来たのではなく、我々が罪の罰を受けまいよう助けに来られた。



# 高ぶりを打ち砕く進化論の誤り(4)ヘッケルの描いた捏造の図

人はどこから誕生したのか？その問題に関して聖書は「神が人を創造した」と述べます。しかし、日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか？それをこのシリーズで見えています。

すでに見てきたように、進化論は、現在でもあくまでも論、理論に過ぎません。進化論者は人間も生物も偶然に進化したとの自分たちの考えを堅く信じていますが、問題は彼らの言う進化の証拠がどこにも見当たらない、ということなのです。

前号では、人の頭蓋骨と猿のあご骨を合体させたインチキ原人、ピルトダウン人を見ましたが、今回は進化論の反復説を唱える、ヘッケルの図が捏造である、ということを見ていきましょう。

ダーウィンの進化論を信じるヘッケルは、19世紀に反復説なる考えを打ち出しました。それは進化論を裏づけ、強化する理論でした。進化論は人も、魚も、鳥もみな、同じ祖先から進化したと論じます。ヘッケルもこの説を強化すべく、人も、魚もカエルも鳥もみな、同じ胚の形から誕生することを語り、みな、進化の過程を反復するようにして誕生することを語りました。ヘッケルの描いた各生物のそれぞれの胚の図を見ると、どれも確かに似ていることが分かります。人も魚も鶏も大人になった姿は異なるが、しかし、その胚を見るとどれも同じ姿に見えるのです。この図を見ると、なるほど、やはり進化論は正しい、どの生物もみな、同じ先祖から進化したのだと思ってしまうのです。このヘッケルの図は今でも学校の教科書に掲載されており、進化論の有力な証拠とされています。さて、そのような彼の胚の図が実際の胚と異なる捏造の図である、全くの偽りの図であるなどと言ったら驚くでしょうか？

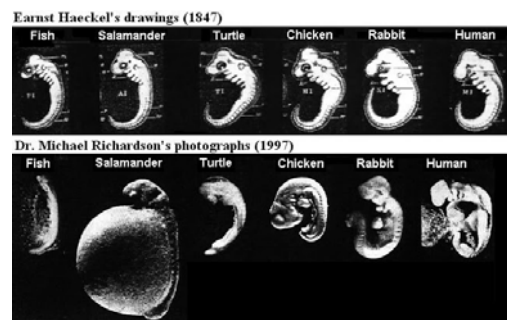
比べれば、一目瞭然です。下記の図を見てください。2段に分かれています。上段には、

ヘッケルが描いた胚の図を載せています。左から、魚、山椒魚、亀、にわとり、兎、人間の胚が描かれています。どれも確かによく似ています。しかし、これらは実際の胚とは異なります。同じ図の下の段に実際の胚の写真が載っています。この写真を見ると、実際の生き物の胚は、魚にしても山椒魚にしてもヘッケルの図と似ても似つかないことが分かります。

何でこんなインチキの図をヘッケルは描いたのでしょう？この件に関連して、1908年にヘッケルは自ら次のような弁明の一文をベルリンの新聞に書き送っています。**「確かにある意味で偽物であることを認め悔いてはいるが、そもそも現時点での観察資料が不完全かつ不十分であることが原因で、失われた環は無理を承知で仮説で埋め、比較に基づく総合判断によって復元しなければならない。」**

要するにヘッケル自身も自分の図が間違っていることを認めているのです。また、失われた環、すなわちダーウィンの言う進化論を裏づける中間種がどうしても存在しないので、無理を承知で、自分で強引な論理、展開に持っていって、自分のインチキの弁明を行っているのです。

このようなわけで、神が、人を、動物を創造したとの教えに反旗を翻した進化論ですが、その進化の証拠とはこのように危ういものなのです。進化論、それは図を描いた本人さえ、すでに誤りを認めている図を教科書に用いなければ、成り立たないインチキな理論なのです。



ヘッケルの胚の図と実際の胚の比較

# 箴言から学ぼう！:神さまを捜し求めるなら

〔聖書箇所〕箴言 8:17,18

8:17 わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見つける。

8:18 富と誉れとはわたしとともにあり、尊い宝物と義もわたしとともにある。

一般的に、そして世の中において、豊かになるために、あるいは良い暮らしをするために、一生懸命働いたり、頑張って貯金をしたりする、という考えがあると思います。もちろんそれは一面の事実でもあります。また、実際に働かないとお金は得られませんし、そうしなければ結果として生活に困窮してしまうと思います。なので、ごく当たり前のことではありますが、それは私たちが生きていく上で、必須であるとも言えます。

そんな風に、たしかに物理的にお金を得ることは大事なものではありませんが・・・しかしそれはそうとして、「**富**」ということに関して、「**わたし(神さま、イエスさま)とともにある**」というのが聖書での主張だということに気付かされます。そんなことを聞いても、「ハア？何それ？」と思うかもしれませんが。でも、聖書にこのように書いている以上、「そうなのかもしれない」と受け止めていくなら、のちに「幸い」を得ますので、よろしければ見てみましょう。

それに関して、前節の「**わたしを熱心に捜す者**」ということばに続いて書かれています。仮にですよ、本当に仮に・・・ある時、突如として職を失う、なんていう状況になったとして・・・普通なら職安へ行ったり、面接へ行ったりと、就職活動を真っ先に考えると思います。もちろんそれは悪いことではないと思います。ごく、普通のことだと思います。しかしですね、聖書ではそれに関して、まず、「**わたしを熱心に捜す**」ことをおすすめしています。そんな風に聞くと、「ふざけるな！突拍子も無いことを言うな！」と怒り出す人もいるかもしれませんが・・・しかし、他の箇所においても、それに関してこのように書かれています。

〔聖書箇所〕マタイの福音書 6:31-33

6:31 そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。

6:32 こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要なことを知っておられます。

6:33 だから、**神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。**

これはイエスさまが言われたことばです。31節で「**心配するのはやめなさい**」とされています。「冗談じゃあない。明日からどうするんだ！」と思いますよね？たしかにそうなのですが・・・でも、イエスさまは、そして聖書はこのように言っています。そしてその心配を打ち消すかのごとく、32節にて、「**天の父は～知っておられます**」とあります。このことばを聞くと、少しホッとしませんでしょうか？もう、すでに神さまはこのことを知っておられるので、大丈夫ですよ～、安心なさい！と語っているのです。さらに続いて、33節のことが言われているのです。「**神の国とその義とをまず第一に求めよ！**」と。ちなみに「**まず第一に求めなさい**」の「**求めなさい**」のことばは、冒頭の「**捜す**」のことばと、同じ意味合いで使われています。両者共に、KJV訳の聖書では“seek”（求める、捜す）ということばが使われています。そしてそのことを本当に実践するなら・・・「**それに加えて～与えられます**」ということが約束されるのです。「エッ、信じられない？」と思うかもしれませんが・・・以下のことを通して、信じていただけると幸いかな？と思います。

レムナントキリスト教会の牧師（エレミヤ牧師）は、このみことばをひたすら信じて、その通りに実践してきた結果、今日まで経済が守られているとのこと。過去、職場で働いていた頃にピンチを迎えたことがあったそうですが、その時にもこのことばを信じることに徹したそうです。そうしたら危機一髪のところ、神さまからの不思議な守りや助けが与えられたそうです。

時として・・・聖書のことばは、私たちの常識や考えとは大分違うかもしれませんが、しかしこのことを信じて実践していくときに、恵みや祝福が約束されていきます。また、経済も守られたりするのです。つまり、神さまを求めていくときに・・・必要なすべてのものが与えられるということ、今回のみことばは証明しているのでは？と思います。

結論として言えることは・・・このように聖書には私たちの人生のあらゆることと密接な関係があり・・・「**富**」すなわち「**経済**」のこととかに関しても、ヒントや答えがある、ということが理解できるのでは？と思います。経済のこともそうですが、他のことに関しても、もし何か困っていたり、悩んでいたりましたら、ぜひ実践してみてください。神さまの助けや守りや良い解決が与えられますように、お祈りしております。

# 詩篇を読む:もし、理不尽な目に会ったとしても・・・

## 〔聖書箇所〕詩篇 3:7

3:7 主よ。立ち上がってください。私の神。私をお救いください。あなたは私のすべての敵の頬を打ち、悪者の歯を打ち砕いてくださいます。

ごくごく一般的なことではありますが・・・誰かに何か嫌なことを言われたり、されたりしたら、少なくとも良い気持ちはしませんよね？まして、不当な目に会ったとしたら、相手を許せなかったりしますよね？また、場合によっては、「いつか仕返しを・・・」なんてことを考えなくもないと思います。そう、「目には目を」「歯には歯を」ということばではありませんが、やったらやり返す、あるいはそれにとどまらず、倍にして返してやる！なんてこともあるかもしれません。しかし、聖書ではこういったことについて、一切奨励してはおりません。「ええっ、嫌なことをする人には仕返しして当然でしょ？」と思うでしょう。はたまた、「何も悪くは無い。悪いのはそういう目に合わせる人なのだから」と。理屈はたしかにそうなのですが、しかし今一度、聖書ではどう語っているのか？を見ていきたいと思えます。

上記聖書のことばは、ダビデが自分を殺そうとした息子アブシャロムから逃げて来た時に、神さまに向かってお祈りしたことばです。ダビデは何も悪いことはしていないのですが、しかし息子アブシャロムは父に代わって王位を取ろうと、そのためにダビデを殺害するために追いかけたのです。それこそ聞けば、「ダビデは何も悪くない。アブシャロムはとんでもない奴だ！こんな者はすぐに抹殺してしまえ！」なんていう意見もあるでしょう。しかしダビデはそのようにはしませんでした。自分を救ってくださるように祈り、そして、「あなたは私のすべての敵の頬を打ち、悪者の歯を打ち砕いてくださいます」とありますように、アブシャロムのすべてを神さまの手にお任せしました。自分では一切、手を下すことなく、しかしその代わりに神さまにお願いしたのです。その結果、どうなったか？と言うと、アブシャロムは結局のところ、ダビデの部下の手によって命を奪われたのです。ダビデがあわや、もうダメだ～、というときに、神さまからの助けが彼の上に与えられ、しかもそれだけではなく、ダビデの敵となった息子アブシャロムへの報復が速やかになされたのです。ちなみに、神さまの敵となる人への報復に関して、別の箇所でも語っていますので、そこも見てみましょう。

## 〔聖書箇所〕ローマ人への手紙 12:19

12:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神

の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」

ダビデが自ら手を下さなかったように、ここでも、自分で「復讐」することを禁じています。それに関して、「復讐はわたし(神)がする。わたしが報いる」と言っています。

そのことに関してさらにもうひとつ例を挙げるなら・・・旧約聖書の士師記にはこのようにも書かれています。

## 〔聖書箇所〕士師記 1:6,7

1:6 ところが、アドニ・ベゼクが逃げたので、彼らはあとを追って彼を捕え、その手足の親指を切り取った。

1:7 すると、アドニ・ベゼクは言った。「私の食卓の下で、手足の親指を切り取られた七十人の王たちが、パンくずを集めていたものだ。神は私がしたとおりのことを、私に報いられた。」それから、彼らはアドニ・ベゼクをエルサレムに連れて行ったが、彼はそこで死んだ。

これもまさに神さまからの「復讐」とか「報復」と言えるのではないのでしょうか？また、同じ詩篇には、「わたしが、定めの時を決め、わたしみずから公正にさばく。」(詩篇75篇2節)ということが言われています。ですから結論として、たとえ私たちが何らか理不尽な目に会ったり、嫌な目に会ったとしても、決して自分では「復讐」とか「仕返し」をしないことをおすすめいたします。神さまが「みずから公正にさばく」と言っていますのでお任せしたいと思えます。そうしていくときに、人間的には形勢が悪いと思うような状況であっても、心の内側は平安や喜びで満ちていきます。そしてそれだけでなく、神さまの時に、神さまの方法で「さばき」がなされていきますので、何も心配する必要が無いのです。反対に、相手が悪く、いくらこちらが正しいと言っても・・・しかし自分の手を下してしまうというときに、神さまからの怒りを招いたり、相手と同じさばきを受けてしまう可能性がありますので気を付けていきたいと思えます。よろしければ、こういうことも心に留めておいていただくと幸いかと思います。



神さまがさばきを行う



# キリストを信じた体験談:偶像の神から救われて(シャローム)

〔聖書箇所〕 I コリント人への手紙10:18-20

10:18 肉によるイスラエルのことを考えてみなさい。供え物を食べる者は、祭壇にあずかるではありませんか。

10:19 私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像の神にささげた肉に、何か意味があるとか、偶像の神に真実な意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。

10:20 いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。

私は、今は神様を信じてから、徐々に霊的な影響から解放されていることをとても幸いと思っています。私は沖縄で生まれ、上京するまで真の神様であるイエス・キリストを知らずに育ちました。田舎では家に大きな造り付けの仏壇があり、そこに先祖の位牌もあるのですが、それに手を合わせて祈ることをごく普通のこととして受け入れて育ちました。周りの人と同じように、祖先崇拝をすることは人としてとても大切な事である、と信じきっていました。しかし、それとともに、心の中では、もし仏壇を拝まないと崇められるのではとの恐れもあったと思います。

今、クリスチャンになって考えるに、祖先を軽視して良いとは思いません。ただ、問題なのは、その頃、真の神様ではなく、偶像（人の手によって作られたもの）を拝んでいたことが問題だと思います。冒頭の聖書のことばにありますように、私は偶像である仏壇を拝んだり、仏壇の供え物を食べる中で、真の神ならぬ、悪霊と交わりを持ってしまったようなのです。偶像（仏壇）は、神の霊ではなく、悪霊の下にあるので、結果、私は悪霊的な影響を受けていたようなのです。

その頃は特別意識した信仰を持って仏壇を拝んでいたわけではなかったのですが、しかし、何はともあれ、拝むという行為を通して、悪霊的な影響を受けていたのです。

その結果、私は悪霊的な影響を生活の中で受けるようになりました。

10代の頃はよく悪夢を見、夢の中で大声で

怒鳴ったりしていました。そのさなか、途中で夢から覚めたことを何度か覚えています。夢の中で激しい歯軋りもしていました。

私は普段は、おとなしい性格なのですが、夢の中では、大きな声で怒鳴ったり、歯軋りを自分の意に反して行っていました。私の母は子どもことには敏感でとても思いやりのある人でした。私のこのような状況を心配してくれていました。ある時は、朝起きたら、私の枕元には、小皿に盛った塩がありました。母が用意したのです。よっぽど、私の寝ている時の状態が異常に思えたのでしょうか。その時は、少しびっくりしましたが、特別気にはしませんでした。

その後、上京しましたが、状況は変わりませんでした。その後、東京で、友人の勧めで教会へ行くことになりました。教会へ行くのは少し躊躇しました。それは、私にとって、ハードルの高いことだったのです。しかし、通い続け、キリストを信じ、洗礼も後に受けました。そして、キリストを信じる生活を続ける中で、私に変化が起きました。いつの間にか、悩みだった悪夢を見ることから開放され、歯軋りをしたり、怒鳴ったりをしなくなりました。20代の前半でこれらのことから癒されました。

キリストに祈り、神の聖霊との交わりの中でこれらの悪霊の影響が消えていったのだと思います。偶像崇拝は大きな罪だと、後で知るようになりました。神のことばである聖書は、学校では教えてもらえない大切なことを私にも教えてくれます。このような悪夢やら、悲観的な考えから、私を助け出してくださったイエス・キリストに感謝いたします。



仏壇を拝むことは霊的な影響を及ぼす

# 聖書に関する偉人のことば:ナポレオンのことば／お知らせコーナー

## <聖書と偉人>

ナポレオン



聖書は、単なる書物ではない。  
じつに生き物である。  
それに反対するすべてのものを  
征服する力を持つものである。

## <お知らせコーナー>

### ●月刊バイブル無料プレゼント！（限定5名様）

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？もし興味があり、購読をご希望の方はお申し込みください。尚、期間限定サービスとして、申し込み順で5名様までに、本紙、送料共に「1年間無料！」で送付することにします。ご希望の方は以下を記載の上、[mail:truth216@nifty.com](mailto:truth216@nifty.com) もしくは [fax:020-4623-5255](tel:020-4623-5255) もしくは <tel:042-364-2327> へご連絡ください。先着5名様に郵送でお送りします。

「月刊バイブル無料サービスに申し込みます。」

住所:

名前:

### ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間: 毎週日曜日/午前 10:30-12:30, 午後 14:00-16:00

場所: 東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

### ★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス <http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋 <http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>